

男ふたり

DAI 04/05

相棒の愛犬サクラとこの家で暮らした  
のは僕の悲しき一人暮らしが始まった約三年  
前からだ。

それ以前にもよくペットセンターに赴き、  
可愛いワンちゃん達を眺めてはそのウルウ  
ルとした瞳に吸い込まれそうになってはいた  
が、某金融会社のコマিশャルのように購入  
するまでにはいかなかったかな。まあ、金銭  
的なこともあったしね。

一人暮らしが始まり、工作中たまたま通っ  
て立ち寄ったペットショップで、シーズー犬  
の赤ちゃんが五匹位入ったケージの中で、模  
様が綺麗にシンメトリーに入った子犬だけが  
自分に近寄ってきて鼻の頭をぺロリ・・・ま  
たぺロリ。

決めた！すぐさま店員さんに買いますから  
売約済みにしといて！って頼んで銀行へ直行  
その日の午後の職場は女性社員のキャー！可

。

愛い！の甲高い声が連呼されたのである。サクラ生後五十日の頃であった。命名したのはもちろん自分。その前に言っておきたいのはサクラはれっきとした雄犬である。だったらなんで女の子の名前なの？って質問をよく受けるが、それはただ単に飼った時、桜の花が満開で綺麗な時期に僕がカラオケで福山雅治の桜坂なる曲をよく唄っていたというわけで、そんな深い意味も無くサクラの命名式は完了した。サクラとよく近所の公園で遊んだ。まだピョンピョン飛び跳ねるように走り回るサクラに花見の宴会場から拍手と女性陣の黄色い声酔った親父どもから御馳走をもらい、下は幼児から上はお婆ちゃんの女性に抱きしめられ御主人の存在はなし。こんちくしょうって思うよりみんなが喜んでくれて嬉しかったかな中には酒を飲まそうとする親父も・・・。

毎週のように公園で遊んでいたから少しは有名になったよ。

仕事から帰ってサクラのブラッシングを行うのが毎日の日課。小一時間ほどシルクのよ  
うな毛を入念にブラシをかけている。近所の  
奥様方曰く、サクラちゃんがお嫁さんだねっ  
て。ハハハッ！奥さんでもこんなと一緒にい  
ないでしょ。なんせトイレまで付いて来るん  
だから。そんなある日、ブラッシングしてた  
ら左耳の先の毛がポロリとおちた。なんだろ  
うって拾い上げてみるとなんと耳の先！グロ  
テスク！（お食事中の方、申し訳ございませ  
ん）  
保険証は持ったつけ・・・。  
財布に・・・。  
家のカギに戸締りしたつけ・・・。  
病院に電話しなくちゃ・・・。  
すぐさま病院へ急行。理由は分かんないけ  
ど壊疽を起こしていた。多分何かで引掻いて  
そこからはばい菌が侵入したのだろう。でも、  
こやつは泣かなかった。注射にもビクともし  
なかつたサクラに拍手。笑えるのが帰りに渡

された耳ガード？顔ガード？触らない様にす  
るやつなんだけど、まるでラツパ犬。ラツパ  
犬のまま散歩すると今度は爆笑の渦。僕は照  
れ笑い。あー、思い出しただけで笑えるなあ  
だから今でも左右の耳の長さが少し違うんだ  
。

花嫁さんが僕からサクラを奪っていった。  
サクラの噂を聞きつけ、とある会社の社長  
婦人が交配の話を持ち掛けてきた。まあ仕事  
上の付き合いもあるから快く了解して、夕方  
ブラッシングを済ませ、二人で待つこと一時  
間。見慣れない高級車がやってきて中には可  
愛いリボンを付けたお嫁さんがちょこんと行  
儀よく座ってた。娘を嫁に出す父親の気持ち  
が分かるなあ。寂しかった。当の本人は振り  
返りもせず高級車に乗り込み、あつという間  
に僕は一人残されていた。それから長い一週  
間の始まり。ちゃんとオス犬として役目を果  
たせるだろうか？余所の家で食欲出るだろう

か？もしかして苛められたりして？等等。  
こちらの心配もどこ吹く風で当の本人は出  
先の子供達と遊ぶのが楽しくてお嫁さんなど  
見向きもせず、リフレッシュ休暇を済ませ我  
が家に帰ってきたのである。やはりこいつは  
予想通り・・・オカマだ。後で聞いたところ  
によると、お嫁さんと同じ部屋で二人きりに  
させられても相手方の事など無視していたみ  
たいで、迎え入れる準備万端の純真無垢なお  
嫁さんの気持ちを十二分に踏みにじったみた  
いである。まったく誰に似たんだか・・・。  
僕の危機に相棒が。

失敗した。犬は食事中に触ったりするとい  
けないのをすっかり忘れていた。

友人の家族が旅行に行くから番犬の面倒を  
泊り込みで見ることになった。合計五匹のワ  
ンちゃん。まあ朝ご飯だけ食べさせたらいい  
し、楽勝！ミニチュアダックスのハナちゃん

と相棒のサクラにご飯をやっていると外の大型犬達が早くご飯をとせがむ。  
うるせーなあ。慣れない家で食器が分からないから一つの器でまあいいや。

まずは僕の大好きなダルメシアンのリク。  
お利巧さんで可愛い。がつがつとご飯を頬張りもつと頂戴だつて。可愛いもんだ。次にミツクス犬のトノ。いつも吠えてるくせにご飯のときは尻尾振りやがる。順番待ち最後のリクの母親リンもまだかまだかと吠えまくつてから早くやらなきゃ・・・。

ガブツ！

痛い！

何が起きた！

左手の肉がえぐれ、血が流れ落ちてる。急ぐあまりトノの食事のへ器は完全に空であったがトノとしては何か儀式でもあったのだろう。器に触ってしまったのである。やられたあ。血の気が引く。ミニチュアのハナが駆け寄り僕の左手を舐め始めた。有難いけどさ

らに痛いんですけど・・・。

あらサクラは？

どこいった？

気が動転して周りが見えなかった。その時聞き慣れた相棒の唸り声！

なんと自分の何十倍もあるトノに向かっていったのである。僕の血の気は更にダウン。

やられる！

相手もエキサイトして臨戦態勢。走りかかってくる相棒に向かって再度牙を向けた。

終わった。僕の目には噛み殺されるサクラの姿が・・・。

しかしトノの牙は空を切ったのである。何故なら相棒のサクラは飛びかかって行ったのはいいが勢い余って横の溝にすっぽりはまっていたのである。

病院で点滴を受けながら、相棒の勇氣に感謝しこれからも僕の良きパートナーで居てくれと願う。



サクラは残り十年の寿命だろう。  
少しでも我が家を守り、出来れば良い伴侶  
をもち、サクラ二世をこの世にと、我が足元  
で円く寝ている君に僕の気持ちを伝えます。  
これからも男二人でね。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--